

自治会 第65号 あつぎ

目 標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的活動から
- ◎行政と協働で築く豊かな文化

平成26年3月15日発行

発行 厚木市自治会連絡協議会
編集 厚木市自治会連絡協議会広報部会
電話 046(225)2101

ネットは



今だからこそ！ 加入しよう、自治会へ

厚木市自治会連絡協議会

近年、自治会加入率が全国的に減少しております。共働きの増加など、核家族化に加え、高齢者の方々も仕事に就いている昨今では、地域活動まで手が回らないのが現実ではないでしょうか。

また、個人情報保護を重視する反面、隣近所との付き合いが気薄になってきました。私たちとしては寂しい限りです。

自治会の役割

自治会は、地域住民の皆さんの福祉増進や生活向上を目指して、自主的に組織されていますが、活動内容は多岐にわたっております。

児童の登下校時の見守りや、地域内の高齢者を対象としたミニデイ（お茶飲み会等）や各種レクリエーション、地域内パトロールや防災訓練、防災備蓄品の点検、地域内の諸問題の解決など、また、暗い夜道を照らす防犯灯の管理や様々な情報（広報紙など）をお届けしているのも自治会です。

いざという時に備えた自治会

家にいるときに大きな地震が発生し、道路が寸断され、地域が孤立した場合や、避難所に行ってみたものの情報が何も入ってこない場合、協力し合えるのはご近所の方です。

家の出入口がふさがれ、外に出られない場合、素早く救出に求められるのは近隣住民です。

す。阪神淡路大震災でも、東日本大震災でも、真っ先に救出活動を開始したのは自治会でした。自治会の活動で多くの方の命が救われております。

いざ、という時に、迅速かつ的確に救出活動を行うためには、日ごろの交流が大切だと考えております。家族構成や仕事の有無を把握しているだけで、要救助者の早期発見につながります。

自治会に加入しましょう

一世帯でも多く加入いただくことが、自治会の更なる活性化につながります。自分たちの地域は自分たちの手で住みよい地域にしていくとともに、季節を感じる行事に参加し、自分たちで地域を守り、いざという時に助け合える、そんな地域を私たちと目指していきましょう。

そのためには、地域に住む皆の力が必要です。まだ自治会に加入していない方、あなたの加入が自治会の力になります。まず、自分のペースで参加していただき、是非、共に住みよい地域になるよう、協力してみませんか。始めてみると、意外に楽しいものです。皆さんの

参加を、心よりお待ちしております。



平成25・26年度 厚木市自治会連絡協議会 役員紹介

会長	小瀬村泰久（南毛利）
副会長	前場 政行（玉川）
会 計	尾崎 常雄（荻野）
庶 務	神保 忠男（森の里）
山 村 勝美（睦合南）	
鈴木 暁司（厚木北）	
三田 哲夫（厚木南）	
川崎 勲（依知北）	
渡邊 勝三（依知南）	
大澤 雄次（睦合北）	
池永 和夫（睦合西）	
山田 充（小 鮎）	
渡邊 征一（南毛利南）	
内田 幸喜（相 川）	
古長 重幸（緑ヶ丘）	
三木 智之（厚木北）	
足立原 将（厚木南）	
松野 勝（依知北）	
倉田 光政（依知南）	
山口 末夫（睦合北）	
又村 孝夫（睦合南）	
栗原 富栄（睦合西）	
古道 弘（荻野）	
毛利 昇（荻野）	
松本 享一（小 鮎）	
前田 満（南毛利）	
佐藤 文彦（南毛利）	
内井 嘉巳（南毛利南）	
宮内 一男（玉川）	
永嶋 信一（森の里）	
菊池 美明（相 川）	
佐々木安雄（緑ヶ丘）	



夏祭りにて

伝統と歴史の 松枝自治会

厚木北地区
松枝自治会
会長 陣内 忠彦

松枝自治会は、厚木北地区の北西部に位置し、中央を国道246が南北に貫通し、西側にJ A厚木本所、東側に市立病院、厚木小学校がある世帯数780の地域です。

この地域は、現在の松枝交差点付近を中心に発展し、現在は水田や畑もほぼ住宅、事業地に変わり、空地もなくなりましたが、歴史は古く、平安時代の厚木発祥の頃より村落を形成し、以来綿々と伝統を紡いできました。そのため地域伝統行事も多く、通常の防犯、防災、健康促進、青少年

年育成、敬老、親睦、生活環境などの自治会諸活動と併せ、自治会内の各種団体との連携の中で、4月の桜まつり、7月の夏祭り、お盆のご先祖迎え送り行事、10月の秋祭り、元旦祭、1月のどんど焼きがあり、多くの住民の方々のご協力で、毎年盛大に行っております。

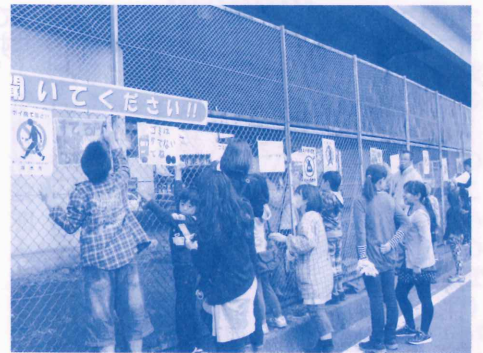
自治会長2年目、団塊世代の私自身は、30年ほど前に仕事の関係で住み始めた新住民ですが、新旧住民の相互理解を深め、この地が誇りある、住んで良かったとふるさととして、伝統を引き継ぎながら発展していきますよう、自治会活動の活性化に努力してまいります。

小学生とごみポイ捨て 防止啓発運動を

依知南地区
金田上部自治会
会長 高澤 公一

金田上部自治会は、平成22年度から依知南小学校と協働で金田陸橋におけるごみポイ捨て防止の啓発運動に取り組んでいます。当時金田陸橋は、信号待ちの車から投げ捨てられている状況でした。

その対策として、地域皆で陸橋の清掃活動をした後、小



啓発絵画を展示している様子

学生が描いたポイ捨て防止の啓発絵画をフェンスに展示し、ごみの投げ捨てを減少させようとスタートしたものです。この取組により、道路上のゴミは飛躍的に減っており、今年度はごみ対策協議会から表彰されました。

今後この啓発運動を行い、地域がきれいで、子どもたちをはじめ地域住民の皆さんが金田上部地区に愛着を持ち、住んで良かったと思っただけことを願っています。

依知南小学校6年

喜代田 涼介さんの感想

「ぼくは、毎年この啓発運動に参加していて、いつも思う事があります。それは、「なんで捨てるのだろう。」という事です。年々減ってはいるけれど、ゼロにはなりません。だから、みんなの書いたポ

スターを一人でも多くの人が見てもらって、少しでもごみが減って陸橋がきれいになってくれたらいいと思います。

災害時要援護者への 「見守り隊」結成

睦台北地区
中三田第二自治会
会長 大澤 雄次

中三田第二自治会は、昭和50年4月に中三田自治会が第一、第二と二つに分離し誕生。以後36年経過し、先人が築かれた地域も、現在は会員数578世帯、清源院の西側から睦合中学の間に世帯数が集中しています。

昭和30年代から40年代の前半迄は畑と桑畑が9割以上占めていた時代から想像もつかない住宅地に変貌を遂げ、地域住民の増加に伴い会員数も増えつつあります。

その状況の中、最近では東日本大震災以降住民の地震に対する不安は急速に増しており、特にひとり暮らしの高齢者や障がい者等、災害弱者といわれる要援護者の方々はより被害を受けやすく、避難の手助けが必要とされます。自治会として民生委員と打合せを重ね、平成24年より災害時要援護者支援制度（災害時見守り隊）を結成し、安心して暮らすことができる地域づくりをスタートしました。

自治会役員、民生委員、自主防災隊が中心となり、災害時の支援を希望される方を選別し、登録者の安否確認、避難誘導の役割を決め、安心袋の配布等少しでも安心できる環境作りを進めています。

また、自治会館内に災害時要援護者マップを作成し、揭示し住民連携での助け合い運動を周知徹底しています。最後に災害時には地域住民の力が被害を最小限に抑えることになり、災害時に限らず日々の生活の中で団結力がより強固になると確信し、今後は自治会としてこの制度の中身を充実させ、一歩一歩根気良く住民に理解と協力をお願いが必要であると考えます。



防災訓練、情報伝達

地域の文化財 天然記念物と行事について

駿河西地区
林連合自治会
代表 池澤 勝海

林連合自治会は第一自治会から第四自治会の四つの自治会で構成されております。本厚木駅から北西へ3・4キロメートルの位置にあり、国道412号線が真ん中を通っており、東の妻田の境に小鮎川の清流が流れております。

この地区で特に紹介できるのは、相模人形芝居とカゴノキ（鹿子ノ木）です。

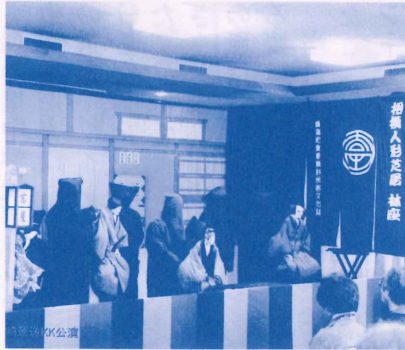
相模人形芝居（国指定重要無形民俗文化財）は二百年ぐらい前、江戸時代に始まりました。現在、厚木市には林座と長谷座の二座があります。相模人形芝居は兵庫県の淡路で生まれ、人形芝居の技術が大坂で磨きがかかり、江戸へ伝わり、相模に根づいたといわれております。

特に林座の人形芝居は、江戸時代中期頃に始まったと伝えられております。江戸時代終わり頃には、大阪の人形師・吉田朝右衛門が指導していたといわれ、林の福傳寺には朝右衛門の墓碑があります。林座の人形は、三人遣いで、江戸系の鉄砲差しという操法を特徴としており、現在でも

これを継承しております。

カゴノキ（厚木市指定天然記念物）は、本州（茨城県・福井県）以西四国・九州の温帯に生ずるクスノキ科の常緑高木で雌雄異株です。林神社のカゴノキは雄株です。生えている場所は、林神社境内の杉林の中にあります。樹皮は平滑で淡紫黒色をしており、幹全体が点々と円や楕円形などの薄片となって剥げ落ち、その後が白く鹿の子模様となることから「カゴノキ」の名がついたそうです。市内では、他に七例だけが確認されている、珍しい木です。

自治会の親睦は、毎年七月末の日曜日に「BONフェスタ・イン・ハヤシ」を開催し、各自治会の店舗が七店ほどで、焼き鳥・焼きそば・フランクフルト・飲み物等を販売します。中央では、子どものダンスなどが行われ、参加者は九百人以上になります。



相模人形芝居

また、一月には「どんぶ焼き」を開催します。三色だんごを串にさし、主催者から提供します。当日は餅つき大会も行い、ぼた餅・きなこ餅・大根おろし餅も提供します。参加者は三〇〇人以上になり、盛大な大会になります。今後、地域発展のために、安心・安全の自治会を目指して、会員とともに進めて参ります。

「研修会」の新たな試み

南毛利南地区
船子自治会
会長 市川 隆雄

船子自治会では、自治会の役員・組長および各種団体役員を対象にして、様々な見聞を広めつつ交流・親睦を深めることを目的として、バスを仕立てて各種施設を訪問する研修会を行ってまいりました。この研修会も回数を重ねることにより、訪問施設の選定や新たな参加者の募集など、困難なことが現れてきました。

そこで今年はいよいよ切った、参加対象を全ての地域住民とし、場所もバスで移動するのではなく地区内の施設で行うことにしました。時期はこれまで通り6月にして、場所は「船子老人憩いの家」と、研修内容は色々議論して検討

した結果、内容を「笑いと健康」にしました。

人間にとって「笑い」は大変に重要で、笑うことにより人間が本来備えている免疫力などの大事な機能が活性化されます。例えば、ナチュラルキラー細胞はガン細胞を無力化しますが、この細胞は「笑い」で活性化されることが医学的にも証明されていますので、ここに焦点を絞りました。研修会の名称は「笑って元気になろう会」とし、次の3部構成で行いました。

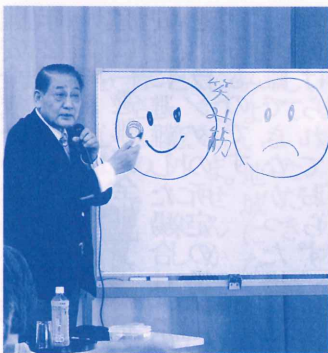
第1部 「笑ってもつと元気に」

講師・藤井敬三氏（日本笑い学会講師）

第2部 落語「かぼちゃ売り」落語家・話亭傾聴

第3部 懇親会

時間も日曜日の午後で、場所も地区内のため初めての参加者も多く、約60名の参加を得て、アンケート結果も新しい方式に肯定的でした。



講演「笑ってもつと元気に」の様子

地域に根づく 「あつき七沢森のまつり」

玉川地区
観音谷戸自治会
会長 荻山 勉

毎年、11月3日の文化の日、県立七沢森林公園で開催される「あつき七沢森のまつり」は、今年度で第37回となり、厚木市長をはじめ、多くの来賓の方々、そしてあゆこちゃんにもお越しいただき、快晴の秋空のもと、盛大に開催されました。

当日、家族連れや観光客など約18,000人の人が訪れ、地元商店会で用意した七沢温泉名物の千人しし鍋や、ふかし芋の無料サービスに舌鼓を打ち、また、会場に特別に設けられた足湯や、木工クラフト、舞台で繰り広げられる地元小学生による踊りやハリーモニカ演奏などを楽しみました。

私たち七沢地区の自治会長が担当する丸太切り大会は、親子など二人で息を合わせ声を掛け合いながら、大きな鋸で直径30cm程の丸太を、厚さ5cmに切り出してもらったものを、サンダーで表面を磨いて森のまつりの焼印を押し、持ち帰っていただきました。開始から終了まで、参加者の長い列ができ、私たちは昼食

を取る間もない状況でしたが、「体験を通して親子の絆が深まった」という参加者の声を聞いたときには、疲れも吹き飛んで幸せな気持ちになりました。

今後も、子どもたちの笑顔と地域のきずなを大切に、あつぎ七沢森のまつりをとおして、地域の活性化に貢献していきたいと思えます。



あつぎ七沢森のまつり

若宮公園に泳ぐ鯉

森の里地区
森の里五丁目自治会
会長 永嶋 信一

昨年の5月、森の里地区自治連主催「第25回鯉のぼりまつり」が開催されました。

朝早くより若宮公園ひょうたん池の上にワイヤーを渡す作業を自治会員、各協力団体（祭り世話人会、文化振興、青少年育成、おやじのたまり場他）の皆さんで行いました。



森の里若宮公園 鯉のぼりまつり

森の里中学校ボランティア生徒さん方にも、こいのぼりの選定やワイヤーにこいを付ける作業を協力いただきました。ワイヤーを張ると、大小さまざまなこいのぼりが新緑の風に乗って一斉に泳ぎ始める姿は見事でした。

当日公園では、凧揚げ（蟬たこ）、かるたとり等のイベントもあり、楽しいピクニック日和で子ども連れの家族の歓声が絶え間なく聞こえ、爽やかな1日となりました。

さて、この場を借りて皆さんにお願いがあります。現在こいのぼりの傷みが激しくなり、数が不足してきました。皆様の家の中に眠っているこいのぼりを寄付して頂けないでしょうか。風爽やかな若宮公園の空で泳がせてみませんか？御協力いただける方は、森の里公民館（TEL046-25015262）まで御連絡いただければ幸いです。

今年も「第26回鯉のぼりまつり」が近づいてまいりました。

た。数多くのこいのぼりが優雅に泳ぐ姿、ぜひ一見していただきたいと思えます。

住民に安心と準備を

相川地区
厚木リバーサイド自治会
会長 菊池 美明

私どもの自治会は170世帯の小さな自治会でありますが、（リバーサイド）居住者がイコール自治会加入者ではないため、未加入者の人数確認が取れず、有事の時に居住者全員に対する支援について、不安を抱えておりました。

しかし、東日本大震災をきっかけに、居住者の人数把握と緊急時の食糧確保、トイレ用品等の生活用品の確保を目的に、居住者全員に調査を行うことになりました。

家族の同居者内訳（性別、幼児、小学生、中学生、高校生、大人、65歳以上等）の記入用紙を作成し、全会員に緊急用人数確認調査票として配布しました。

結果として、調査票の回収率は100%で、食糧の確保や住民の安否確認が安易に確実にできるようになり、この人数確認のための調査は毎年5月に実施しております。

また、住民が確実に避難できたかを確認するために、「避

難安全旗」の旗出し訓練を毎年2回実施しています。

この訓練は、自治会が各家庭に「避難安全旗」を配布し、安全に避難した場合はこの旗をベランダの所定の場所に掲げるものです。

避難できなかった場合、旗は掲げられておらず、建物の外から避難の有無をピンポイントで把握ができ、素早く救出に向かうなどの対応ができるため、緊急時には有効であると考えます。

今後も自治会が出来る最低限の安心と準備をし、住民の安心安全な暮らしが守れるように活動していきたいと考えております。



避難安全旗(防災訓練にて)

緑ヶ丘の歴史と活動

緑ヶ丘地区
緑ヶ丘三丁目自治会
会長 草野 高志

我団地が建設されたのは、昭和38年、現在約50年に成ります。その後、建物も古くなり、昭和61年以降建替えられ、

現在に至ります。当時は文化的で住み良く、若い家族、また、子どももたくさんおり、賑やかな団地でした。

ところが今現在は、高齢化が進み、階段の上がり降りに苦勞されている方がたくさん居ります。また、商店街も無くなり、近くのスーパーも閉店し、買い物にも一苦勞の状態です。自治会の活動も、高齢化に依り、組長さんの役員選びにも苦勞して居ります。

また、団地の外まわり掃除を1ヶ月1回、第3日曜日に行っておりますが、それも又出席者が少ない所も多く、組長さんも困って居ります。

その中でも積極的に参加される方もおり、美化活動に頑張っておられます。また、公園の一角で将棋や、ゲートボールを楽しんでおられる方もおり、交流を深めておられます。今、我団地は、一人一人が美化活動に協力していかうとする意識が高まっており、頑張っています。



草刈りに大奮闘の様子